

### ■修理部品に関するお願い

パーツを注文される際には必ず商品名と商品コードをお知らせください。

弊社は修理部品を商品コード番号によって分類しています。穂先交換など自分で修理される場合には、商品コード番号をお知らせください。商品コード番号は、保証書、本体元竿、パッケージのラベル、タグ等に記載されています。商品コード番号を控えて、修理の際には必ず御提示ください。

●修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。修理対応期間につきましてはシマノ全国サービスネットにお問い合わせください。

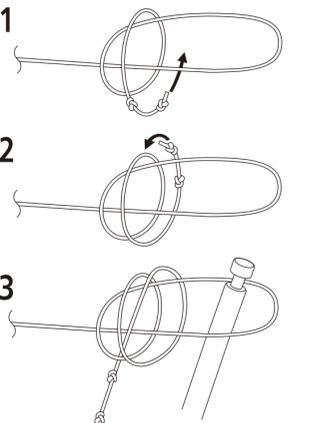
※商品コード番号は、数字の5ケタになっています。(例) CODE No.12345



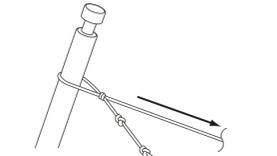
### ■回転「超感」トップへの糸の取り付け方について

■取り付け部の糸は、ナイロン又はフロカーボンの 0.6~1.5号が適切です。■取り付け方法は「2重投げなわ結び」「8の字投げなわ結び」などが適切です。

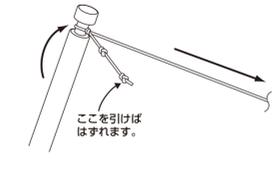
#### 2重なげなわ結び



4 図の位置まで穂先を通した後、道糸をゆっくりと締め付けていきます。



5 最後に結び目を回転「超感」トップのミノでスライドさせて、ミノになじむように道糸をさらに引っ張って締め付ければ出来上がりです。



回転「超感」トップへ糸を取り付けるときは、金属部を持つようにしてください。ソリッド穂先や細いチューブラ穂先の場合は、穂先を折る恐れがありますので、特に注意してください。

### ■釣行後のお手入れもお忘れなく

■竿の使用後、濡れたままで放置・保管しないでください。次に使う際、節が固着する恐れがあります。節を一本ずつ抜いて陰干しで乾かしてから保管してください。

■竿の使用後は竿を仕舞った状態で尻栓を外し、先端から水を流し入れて砂やゴミを洗い流してください。次に穂先から順に抜き出し、ひと筋ずつ洗ってください。砂が残っているか擦り傷がつく恐れがあります。特に合わせ部分から黒い水が出るような場合には、十二分に洗い流してください。

■竿を乾燥などのために立て掛けるときは、絶対に倒れないようにしてください。傷つき、ひび割れ防止のためくれぐれもご注意ください。

■竿の合わせ部に市販のロッドクリーナーやワックスを塗ることは、絶対しないでください。固着の原因になる恐れがあります。

■塗装面の保護のために、車での釣行時には、進行方向に対して竿が横向きになるようにしてください。進行方向と平行に積むと、加速、減速時に竿の節々の表面がこすれて傷むことがあります。

■竿を濡れたまま収納しておいたり、高温多湿状態や密閉状態で置いておくなど、塗装部に水ぶくれや気泡ができることがありますので、保管には十分ご注意ください。

タワシ・みがき粉・ベンジン及びシンナー等のご使用は絶対に避けてください。



■竿の汚れは、柔らかい布等でやさしくふき取ってください。落ちにくい汚れは、真水又はぬるま湯で丁寧に洗った後、乾いた布でやさしくふき取ってください。また、砂粒等が付着している場合も、必ず洗い流してください。

■洗浄後は、風通しのよいところで陰干しをしてください。

■竿の表面を布等で強くこすりますと、塗装の種類によっては色落が発生する場合がございます。ただし、塗膜そのものが剥離したり、ロッドの機能に影響を及ぼす恐れはございませんので、あらかじめご了承くださいませ。また、衣服等に色が付く場合がありますのでご注意ください。

車のトランクルームなどに長期間放置しないでください。

■高温・密閉状態での長期間放置は、竿の変形など大きなトラブルのもとになります。上記の要領で手入れしたあとは、風通しの良い場所にしまってください。



### ■安全上のご注意 ご使用前に必ずお読みください。

危険、警告、注意の注意書き表

### ■鮎竿取り扱い上のご注意(使用時の破損には特にご注意ください)

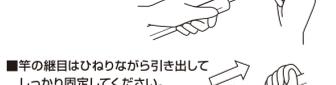
何もしないのに竿が折れた!? こんなご経験はありませんか? 竿の破損には何かの原因があります。以下の取り扱い注意事項を良くお読みいただき、大切にお使いください。

#### 竿を伸ばすときのご注意

■上栓をはずす時は、真上に引き抜くようにしてください。無理にひねったり、こじたりすると玉口部分を傷つけることがあります。



■竿を伸ばすときは穂先から順に引き出し、1節ずつ確実に固定しながら伸ばしてください。いきおいよく引き出すと固着する恐れがあります。特に竿が濡れている状態の時は注意してください。



■竿の穂目はひねりながら引き出してしっかりと固定してください。

竿は一点に力が加わると簡単に破損してしまいます。竿を伸ばしたり、仕舞った時に最ももう言うトラブルが発生しやすいので十分ご注意ください。

■竿の合わせがゆるすぎると、途中の穂目から先の節が落ちてしまい、さらに残りの節を納めようとすると、その竿尻が先に落下した細い節の玉口にぶつかって、互いに玉口割れ、竿尻割れ、竿内側割れ、これらによる竿折れを引き起こしてしまいます。



■落ちた節を無理に引き出すと、穂目の内側と玉口が当たって、これも同様に玉口割れ、竿尻割れ、竿内側割れ、これらによる竿折れの原因となります。尻栓をはずして一本ずつ抜き取ってから、再度巻き直すようにしてください。使用中は時々竿のゆるみを確認して、ゆるみを取ってください。



#### 釣りをしているときのご注意

■釣りの最中はとくに穂先に糸がからんでいないか気をつけてください。また、絡み目のゆるみもときどき点検しましょう。

■竿を伸ばすとき、竿を仕舞うときは、竿尻をできるだけ川につけないでください。水中の細かい砂を吸い込んで中竿の表面や合わせ部を傷つける恐れがあります。また、釣行後は、水道水などで竿をよく洗ってください。

■カーボンロッドは衝撃に非常に弱い性質を持っています。車などに立てかけた竿が風などで倒れたり、河原の石の上に乱暴に置いたり、竿同士が当たったりするとカーボン繊維に傷が入り、破損の原因となる場合がありますので、充分ご注意ください。また、河原の石の間に竿尻を差し込んで竿を立てたときは竿を傷つけやすいので、絶対にしないようにしてください。

■強風にあおられて竿が大きく曲り過ぎると破損する恐れがあります。また、向かい風に逆らうと破損させる恐れがあります。

■適合水中糸の号数表示は、竿の強度の限界を表すものではありません。根掛りを外そうと竿をおおと無理な荷重が一部分にかかり竿を破損させる恐れがあります。根掛りなどの場合は無理に竿をおおと、糸を手にとって引っ張ってください。とくに金属ラインは強いので注意してください。また、ラインを手を取る場合は手を傷つけないようご注意ください。

■魚を掛けたら穂先を急角度に曲げたり、竿を空に突き上げるような操作は避けてください。穂先や穂持ちが破損する恐れがあります。

■竿を仕舞うときは強く叩き込まないでください。尻栓のネジヤマが濡れたり節の下端が破損する恐れがあります。

#### 穂先、#2、#3 玉口折れにご注意

■竿を仕舞うときは、手元から順次納めてください。穂先、2番、3番など細い部分を納める時は、元竿を脇にはさみ、穂先部分のすぐ上とすぐ下を持って、ひねりながらねじ込むように納めてください。

この時、仕舞う節の穂先部分近をそれより太い節の玉口内側に当たらないように注意してください。玉口の端で細い節を傷める恐れがあります。仕舞う時に傷めると、次回釣行時に荷重がかかった際に破損する恐れがあります。

■竿尻を何かにあてて押し込む場合は、何か柔らかい物の上に竿尻をあてがい、手元から順に一本ずつ納めてください。この時竿尻を水の中につけないようにしてください。

■仕舞寸法の長い竿を脇にはさんで伸ばしたり、仕舞ったときは、通常の竿よりも穂先を中心とした回転方向の力が、かかりやすいので#2、#3の玉口を折らないようご注意ください。

#### パワーセレクトシステムに関して

■標準穂先を付属の替穂先に変更することで、竿の硬さランク(H表示)を変更することが出来ます。ただし竿の強度が変わるわけではございませんので、過度の荷重での使用は破損に繋がる恐れがあります。

#### チタンセラミックコートについて

素材表面にチタンセラミック皮膜が特殊な方法によりコーティングされています。

■中竿を素手で触ったり、また、汚れが付着したりしますと、色が変わる場合があります。これは、被膜表面に付着した、油分等が原因の光の干渉によるものです。皮膜の機能には影響ありません。

■中竿の表面には、小さな凹凸がありますが、これは、素材の成型時にできる凹凸で、徹底した軽量化を追求した結果です。糸絡みや糸を傷けたりする心配はありません。また、表面は丁寧に磨かれますが、機能には影響ありません。

■中竿の表面はチタンセラミック皮膜でコーティングされています。この皮膜は非常に硬いのですが、極めて薄くコーティングされています。度重なる擦れにより、凹凸の山の頂点を皮膜が磨り取れることがあります。これにより機能や強度が低下することはありません。

#### チタンセラミック皮膜の再コーティングは、工程上できませんのでご了承ください。

●このコーティングでは、素材表面に塗膜がありませんので、外からの衝撃は直接素材にかかります。複雑した釣りの場で竿の接触や、竿を河原に置かれるときなどは充分ご注意ください。

●タワシ・磨き粉・ベンジン及びシンナー等の使用は絶対に避けてください。チタンセラミック皮膜及びロッド素材まで傷める原因になります。

#### パリアフィニッシュについて

パリアフィニッシュは撥水性の高い塗料を薄い膜でコーティングしたものです。

■パリアフィニッシュの撥水性能は半永久的に持続するものではありません。塗膜の磨耗により撥水性の低下が起こる場合があります。

#### パリアフィニッシュの再コーティングは、工程上できませんのでご了承ください。

●タワシ・磨き粉・ベンジン及びシンナー等の使用は絶対に避けてください。パリアフィニッシュ塗膜及びロッド素材まで傷める原因になります。

●パリアフィニッシュの撥水性能が著しく低下した場合は、市販のロッドコーティング剤をご使用にならないことをお勧めします。もし、市販のロッドコーティング剤をご使用の際は、研磨材が入っていないものをご使用の上、柔らかい布でやさしく拭いてください。ゴシゴシと力を入れて磨り込むような拭き方はしないでください。磨りすぎるとパリアフィニッシュの塗膜を傷める場合があります。またこの際、ロッドコーティング剤が合わせ部に付着しないようくれぐれもご注意ください。合わせ部にロッドコーティング剤が付着しますと竿の固着の原因になることがあります。

### シマノのズームロッドには、HISPEED-III とアクションズーム(支流モデルを含む)の2種類があります。お買い上げのズームロッドに対応した下記ご注意をよくお読みください。

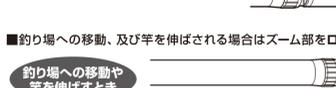
■ズーム操作時は、グリップ部とズーム部に段差があります。ここを握って急激にズームインすると、手を挟む場合がありますのでご注意ください。

#### HISPEED-III 使用上のご注意

##### ◆HISPEED-III で釣りをするときのご注意

HISPEED-IIIのズームインポジションにはロック状態、実釣ポジションと2つのポジションがあります。

■釣り場への移動、及び竿を伸ばされる場合はズーム部をロック状態にしてください。



■実際に釣りをされる時は、実釣ポジション(ズーム部のロック解除状態)にしておいてください。ロックの解除方法は下図の方向に約1/6回転させると解除できます。

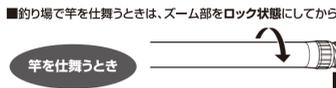


■ズームアップ時、勢いよくズーム部を伸ばすと固着する恐れがありますのでご注意ください。

■ズームアップポジションでは周方向に、若干のアンビを感じる場合がありますが、ズーム機能には影響ありませんので安心してお使いください。

■実釣ポジション(ズーム部のロック解除状態)で、竿尻を石などに強く当てないでください。ロックができなくなる恐れがあります。

■釣り場で竿を仕舞うときは、ズーム部をロック状態にしてから仕舞ってください。



##### ◆アクションズーム(支流モデルを含む)使用上のご注意

ズーム部の分解は、元上後端にある元上尻栓のネジキャップを緩めて行います。

■まず、ロック状態を解除してから元上とネジキャップを別々に保持し、【図1】の方向に回すとネジキャップを緩めることができます。固く緩めない場合は、【図2】の様に付属のゴムシートで元上尻栓のネジキャップを保持していただく緩めやすくなります。



■ネジキャップを元上尻栓から分離した後、グリップのついた元竿を引き出すことによって元上から分離することができます。【図3】の様に元竿と元上とが分離できた状態でもズームスペーサーとネジキャップは元竿のスライダ部にははずすことではありません。この状態で水洗い、乾燥等の手入れを行ってください。



■元竿のスライダ部先端の合わせ部に市販のロッドクリーナーやワックスを塗ると固着の原因になりますので絶対にしないでください。

分解したズーム部を組み立てるときは、分解方法の逆を行います。

■元上に元竿、及びズームスペーサーを差し込みます。このとき【図4】の様に元上尻栓の凹部にズームスペーサーの凸部が確実にはまるようにセッティングしてください。その上で【図5】の様にネジキャップをかぶせネジを締め込んで終了です。



■万、元上尻栓を緩められない場合、無理をしますと破損したり、怪我をしたりする恐れがありますので、尻栓をせすお買いいただいた販売店又は、お近くのシマノサービスネットへご連絡ください。

#### HISPEED-III 使用上のご注意

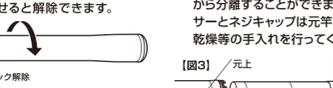
##### ◆HISPEED-III で釣りをするときのご注意

HISPEED-IIIのズームインポジションにはロック状態、実釣ポジションと2つのポジションがあります。

■釣り場への移動、及び竿を伸ばされる場合はズーム部をロック状態にしてください。



■実際に釣りをされる時は、実釣ポジション(ズーム部のロック解除状態)にしておいてください。ロックの解除方法は下図の方向に約1/6回転させると解除できます。

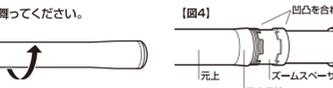


■ズームアップ時、勢いよくズーム部を伸ばすと固着する恐れがありますのでご注意ください。

■ズームアップポジションでは周方向に、若干のアンビを感じる場合がありますが、ズーム機能には影響ありませんので安心してお使いください。

■実釣ポジション(ズーム部のロック解除状態)で、竿尻を石などに強く当てないでください。ロックができなくなる恐れがあります。

■釣り場で竿を仕舞うときは、ズーム部をロック状態にしてから仕舞ってください。



##### ◆アクションズーム(支流モデルを含む)使用上のご注意

ズーム部の分解は、元上後端にある元上尻栓のネジキャップを緩めて行います。

■まず、ロック状態を解除してから元上とネジキャップを別々に保持し、【図1】の方向に回すとネジキャップを緩めることができます。固く緩めない場合は、【図2】の様に付属のゴムシートで元上尻栓のネジキャップを保持していただく緩めやすくなります。



■ネジキャップを元上尻栓から分離した後、グリップのついた元竿を引き出すことによって元上から分離することができます。【図3】の様に元竿と元上とが分離できた状態でもズームスペーサーとネジキャップは元竿のスライダ部にははずすことではありません。この状態で水洗い、乾燥等の手入れを行ってください。



■元竿のスライダ部先端の合わせ部に市販のロッドクリーナーやワックスを塗ると固着の原因になりますので絶対にしないでください。

分解したズーム部を組み立てるときは、分解方法の逆を行います。

■元上に元竿、及びズームスペーサーを差し込みます。このとき【図4】の様に元上尻栓の凹部にズームスペーサーの凸部が確実にはまるようにセッティングしてください。その上で【図5】の様にネジキャップをかぶせネジを締め込んで終了です。



■万、元上尻栓を緩められない場合、無理をしますと破損したり、怪我をしたりする恐れがありますので、尻栓をせすお買いいただいた販売店又は、お近くのシマノサービスネットへご連絡ください。

#### アクションズーム(支流モデルを含む)使用上のご注意

アクションズームロッド(支流モデルを含む)には元上にも尻栓が付いており、ズームインの際に元上の尻栓と、元竿の尻栓が嵌合する方式をとっています。

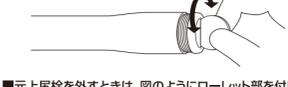
元上を持って、叩き込み仕舞いをして、元竿が飛び出ないのが特徴です。

■ズームアップ時、勢いよくズーム部を伸ばすと固着する恐れがありますのでご注意ください。

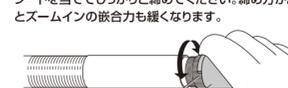


##### ◆尻栓の取り外しの際には、下記の点にご注意ください。

■元上尻栓付きタイプの尻栓を外すときは尻栓の溝にコインを差し込んで回してください。取り付けるときは同じコインでしっかりと締めてください。締め方が緩いと元上尻栓もしくは尻栓が緩んで外れる場合があります。



■元上尻栓を外すときは、図のようにローレット部を付属のゴムシートで覆って回してください。また、外した元上尻栓を取り付けるときも同様にローレット部に付属のゴムシートを当ててしっかりと締めてください。締め方が緩いとズームインの嵌合力も弱くなります。



■ズームインの回転トルク(回転方向の固定力)が弱くなったときは、元上尻栓もしくは尻栓が緩んでいる場合があります。そのときは取り付けるときと同じくゴムシートもしくはコインでしっかりと締めてください。締め方が緩いと元上尻栓もしくは尻栓が緩んで外れる場合があります。

#### しっかりとグリップに関するご注意

■しっかりとグリップに採用されているポリウレタン系軟質塗料は、竿の使用頻度にかかわらず、光による変色退色を起こしたり、溶剤、水分、汚れ等によりべたつきを発生する可能性があります。保管の際は、直射日光、高温多湿となる場所を避けることをお勧めします。

#### その他のご注意

■竿は改造しないでください。穂先を詰めたりハカマをつけるなどの改造が施されている、修理時には保証期間内であっても有償となります。

■竿は一本一本、熟練職人が仕上げられています。手作業のため色調や質感に若干の差が生じる場合がありますがご了承承ります。

■ご使用になられた頻度、または外的要因による発生した不具合(塗装その他の表面処理の自然退色、腐蝕、剥離、擦り傷等)は保証期間内であっても有償となります。

■竿は全体的に手く力が加わって曲がる時は、強度を最大限に発揮しますが、一部分に集中的に力が加わったり、またその様な曲げ方をすると簡単に破損してしまいます。取り扱いには十分ご注意ください。

# SHIMANO FISHING ROD

フィッシングロッドを末永くお使いいただくために

## フィッシングロッド 取扱説明書

このたびは、シマノフィッシングロッドをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。いかに軽くて丈夫なロッドでも、乱暴な取り扱いでは、竿を傷めてしまいます。釣り人にとって、竿は大切な体の一部。この説明書をお読みの上未永く、ご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

# SHIMANO

### 安全上のご注意 ご使用前に必ずお読みください。

<b>⚠ 危険</b>	<p>高圧線への接近による放電や感電、さらに落雷による感電は、最悪の場合重大事故(感電死)を招く恐れがあります。尚、水に濡れたグラスロッドも同様の危険がありますのでご注意ください。</p> <p>気象条件により、空気中に電気を帯びている場合があります。ビビリと電気を感じるのとは為です。天候の変化等により危険を伴いますので、そうした場所での釣りはお避けください。落雷・感電による感電死を招く恐れがあります。</p> <p><b>電線との接触による感電</b> 高圧線・線路・鉄橋等の電線による感電に注意してください。釣竿は素材特性上、電気をよく伝えます。特に電線等に接触、または、釣竿を近づけただけでも感電して死亡事故の原因となります。釣り場を移動する時は竿をたたみ、高圧線・線路・鉄橋等の電線の下または近くでは絶対に使用しないでください。</p> <p><b>落雷による感電</b> 落雷による感電に注意してください。使用中、雷が発生した時は、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。また、雷の発生がなくても、釣竿から電気を感ずるようなときも同様、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。</p> <p><b>釣り場以外の電線による感電</b> 釣り以外で釣竿を使用し、電線に触れる事故が発生しています。釣竿を使用する時は、周囲の安全に十分注意してください。</p>
<b>⚠ 警告</b>	<p><b>キャスト(投げ)時の注意</b> キャスティング(投げ)の時は、周囲に人がいないか、十分に安全を確認してください。釣針が人にささったり、ルアーフック、オモリ等が人に当たると非常に危険です。</p>
<b>⚠ 注意</b>	<p><b>固着のゆるめ方</b> 釣竿の固着(継ぎ部が食い込んで外れない時)は、継ぎ目の両側近くに、すべり止めを当てて握り、互いに逆方向へヒネリながら押し(振出竿の場合)、継ぎ目をゆるめてください。その際、一気に力を加えると釣竿の継ぎ目に手をはさみ、けがをすることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●竿の構造上、固着を完全に防止することはできません。固着をゆるめる時等、強く竿を握ると竿が潰れて破損し、手等に怪我をする場合がありますのでご注意ください。</li> <li>●固着をゆるめる時等、ガイド部分を握って節の抜き差しはしないでください。ガイドの変形や糸止部の破損の原因になり、手等に怪我をする場合がありますのでおやめください。</li> </ul> <p><b>根掛かりの外し方</b> 根掛かり(水中、陸上での障害物に仕掛けが絡みはすれない状態)した時は、無理に竿をあらさないでください。竿が折れたり、外れた仕掛けが飛んできて、けがをすることがあります。根掛かりは、出来るだけ、糸を手にとって引っ張って糸を切ってください。その際、糸で手を切ることがありますので、手袋やタオルで手を保護してください。</p> <p><b>破損時の取り扱い方</b> 使用中、万が一釣竿が破損(折れ、割れ、欠け、剥離)した場合、破損した箇所を手などがけをすることがあります。</p> <p><b>子供の手の届く所に置かないでください</b> 誤使用による事故や怪我に繋がる恐れがあります。</p> <p><b>釣竿を釣り以外の目的に使用しないでください</b> 事故や怪我につながる恐れがあります。</p> <p><b>竿の一部や穂先等を無理に曲げると折れることがあります</b> 折れた竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがありますのでご注意ください。</p> <p><b>安全に釣りを頂くために</b> 万一、竿が破損してしまった場合、破損した竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがあります。釣りをする際は、安全のためサングラス(偏光グラス)、帽子の着用をお勧めします。</p>

※本製品の本体には法律に基づき、竿による感電に注意して頂くよう注意喚起シンボルシールが貼ってあります。簡単にはがれないように、シールの上にコーティングしてありますので、はがさないようお願いいたします。尚、印刷されている機種もあります。

## フィッシングロッド取扱い上の注意

### 使用上のご注意

- ガイド付き振り出し竿の場合・・・**
  - トップカバーをはずす時は、真上に引き抜くようにしてください。無理にひねったり、こじったりすると穂先を折ることがあります。
  - 移動ガイドは、確実にセットしてください。また、ガイドに道糸を通し忘れないよう注意してください。それらが原因で穂先を折ることがあります。
  - 糸ガラムシは、確実に道糸を巻き込まないでください。竿の一部に無理な力がかかり折れることがあります。
- ガイドなし竿の場合・・・**
  - 上栓をはずす時は、真上に引き抜くようにしてください。無理にひねったり、こじったりすると玉口部分を傷つけることがあります。
  - 糸ガラムシは、確実に道糸を巻き込まないでください。竿の一部に無理な力がかかり折れることがあります。
- ガイド付き並継ぎ・印籠継ぎ竿の場合・・・**
  - 竿を継いで伸ばす際、前後のガイドのセンター合わせを同時に継ぎ部の合わせをしっかりと行ってください。合わせが緩いと、キャスト時に合わせが抜ける恐れがあります。
  - フルキャストを繰り返す場合、定期的には継ぎ部の合わせ具合をご確認ください。合わせが緩いと、キャスト時に合わせが抜ける恐れがあります。
  - 竿を継いで伸ばしたり、あるいは仕舞う際に、ガイド部を持って捻じったりしないでください。ガイドの破損、ガイドの変形、厚塗り部の割れや剥離、糸巻きが破損する恐れがあります。
- ソリッド穂先に関するご注意・・・**
  - 竿尻を何かにあてがって押し込む場合は、何か柔らかい物の上に竿尻をあてがい、手元から順に一本ずつ納めてください。この時竿尻を水の中につけないようにしてください。
  - 仕舞う時の長い竿を脇にはさんで伸ばしたり、仕舞ったりするときは、通常の竿よりも脇を中心とした回転方向の力が、かかりやすいので#2、#3の玉口を折らないようご注意ください。
- この時、仕舞う節の継ぎ部付近をそれより太い節の玉口内側に当たらないように注意してください。玉口の端で細い節を傷める恐れがあります。仕舞う時に傷めると、次回釣行時に荷重がかかった際に破損する恐れがあります。**
- スビゴットフェール(印籠継ぎ)の場合・・・**
  - スビゴットフェール(印籠継ぎ)部は隙間があくように設計されています。これは季節や環境の変化による合わせ部の膨張、収縮と磨耗に対応するためのものです。充分強度を持たせており使用上の問題はありませので安心してお使いください。無理矢理差し込んだりすると口割れをおこしたり、ぬげなくなる恐れがありますので、必要以上に差し込まないでください。
- ズームロッド操作時のご注意・・・**
  - グリップ部とズーム部には段差があります。ここを握って急激にズームインすると、手を挟む場合がありますのでご注意ください。

### 継ぎ目がとれにくくなった場合

- ガイドなし振り出し竿の場合・・・**
  - 固着したところより細い(穂先方向)部分を、まず抜き取ります。元竿の中に仕舞い込んだロッドはそのままにして、板面等それほど硬くない水平な面に垂直に立てて持ちます。元竿や仕舞い込んだロッドを誘導管にして、ストン、ストンと落とせば意外に簡単に外れます。このとき、タオルや段ボールなどを敷いておけば、より安心です。
- ガイド付き振り出し竿の場合・・・**
  - 並継ぎ竿と同じ要領です。お互いに逆方向にネジリながら、ゆっくりと押し込みあいます。
- この時、竿に手をはさむ場合がある場合、手袋をつける等してご注意ください。**
- 並継ぎ・印籠継ぎ竿の場合・・・**
  - スベリ止めのゴムシートや輪ゴムを当てて、図のように2人でも向きあい、継ぎ目に近いところをしっかりと握ります。お互いに、逆方向にゆっくりとネジリながら引き抜きます。
- 継ぎ目に砂が入った場合・・・**
  - 振出し竿は、元竿の下栓を外し、一本一本抜き出して、竿の内側をていねいに手入れしてください。ガイド付きの竿は、下栓を外し、よく水洗いをして砂を流したあと、風通しの良い場所に日陰干しをしてください。
- その他のご注意**
  - 竿が曲がる際に、糸巻き部の厚塗りが竿の曲がりに追従できず、ひびが入ることがありますが、ガイドやリールシートの固定力には問題ありません。現在の生産技術上、ひび割れを防ぐことはできない状態です。あらかじめご了承ください。
  - 竿は一本一本、手作業で仕上げられています。そのため、商品により色調や質感に若干の差が生じる場合がありますがご了承ください。

- ロッドの曲がりについて**  
現在のロッド生産技術上、グラスロッド、カーボンロッドの違いを問わず各部分の曲がりを100%排除することは不可能な状態です。特にカーボンロッドに於いては繊維自体の持つ強い剛性のため、ロッド全体に垂れ下がりがないので従来のグラスロッドに比べ曲がりかどうしても目立ちます。強度機能上は問題ありませんので、ご安心ください。
- 改造後の責任は負いかねます**  
改造後の故障については、保証期間中であっても負いかねる場合があります。ご注意ください。
- 万一の故障は全国のサービスネットへ**  
お買い上げの販売店又は、お近くのシマノサービスネットへご連絡ください。その際、保証書付きの商品は保証書を添えてください。保証期間中の故障は、保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。保証期間経過後の修理、又は保証書無しの商品は、有料修理とさせていただきます。

※この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造中止後6年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後6年以内でも供給できない可能性があります。

**釣行後のお手入れもお忘れなく**

水洗いをして、汚れや塩分をきれいに落とし、水気をふきとります。このあと、風通しの良い場所で、日陰干しをして、水気を完全にふきとってください。ロッド部はシリコンクロスなどで空ぶき。ガイドやリールシートは防錆スプレーを。こうしておけば、塗装部の水ぶくれ(プリスタ)や、金属部のサビなどをシャットアウトできます。

**タワシ・みがき粉・ベンジン及びシンナー等のご使用は絶対に避けてください。**

ロッドの汚れは、真水又はぬるま湯で洗った後、乾いた布でよく拭きとってください。  
注)市販のロッドクリーナーやワックス・洗剤等をご使用になる場合はくれぐれも注意してください。ロッドによっては塗装及び時にはロッドまで傷める原因になります。

竿の表面を布等で強くこすると、塗装の種類によっては色落ちが発生する場合がございます。ただし、塗膜そのものが剥離したり、ロッドの機能に影響を及ぼす恐れはございませんので、あらかじめご了承くださいませ。また、衣服等に色が付く場合がありますのでご注意ください。

**修理部品に関するお願い**

パーツを注文される際には、必ず商品名と商品コード番号をお知らせください。

弊社は修理部品を商品コード番号によって分類しています。穂先交換など自分で修理される場合には、商品コード番号をお知らせください。商品コード番号は、保証書(保証書の付かない商品もあります)、本体元竿、パッケージのラベル、タグ等に記載されています。商品コード番号を控えて、修理の際には必ず御提示ください。

- 修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。修理対応期間につきましてはシマノ全国サービスネットにお問い合わせください。

※商品コード番号は、数字の5ケタになっています。(例) CODE No.12345

保証書(保証書の付かない商品もあります) | 元竿 | パッケージ | タグ